

プレスリリース

市民社会は力強い閣僚宣言と SDGs への体系的アプローチを要求する¹

2020年7月30日

国連による持続可能な開発プロセスの公式ステークホルダーである「メジャー・グループおよびその他のステークホルダー (MGoS)」のメンバーは、「持続可能な開発目標 (SDGs) に関するハイレベル政治フォーラム (HLPF)」の閉幕にあたり、国連加盟国政府が閣僚宣言を発表できなかったこと²に懸念と失望を抱いている。HLPF は、2020年7月7日から16日までオンラインで開催された。

「私たちが HLPF に参加したのは、私たちが直面している複雑に絡み合った危機から世界を救い出すために、アジェンダ 2030 と SDGs に沿った具体的なステップについて、各国政府が約束するのを確認したかったからです。しかし、閣僚宣言が採択できなかったということは、各国政府が世界を覆うパンデミックの真っ只中にありながら、まったく行動を起こそうとしていないことの証拠です。」と、フランシス・ザイノエッディン (国際高齢化連盟) は述べている。

今年の HLPF では、COVID-19 パンデミックが健康、経済、福祉 (ウェル・ビーイング) に与える影響が主要なテーマとなった。多くの加盟国、国連機関、市民社会の代表者は、パンデミックにより、開発モデルと構造的な地球規模の不平等がどのような差異や格差を生んでいるかを露呈させたことを議論した。しかし、HLPF は何の合意も得られないまま閉幕し、数回の交渉にもかかわらず、現在の閣僚宣言草案はいまだに採択されず、多くの人々を失望させている。

「パンデミックの結果、186 カ国がすべての学校と大学を閉鎖しました。ユネスコによると、12 億人以上の児童・学生が影響を受け、生涯学習の機会が減少し、社会的・経済的な不平等が悪化し、特に、オンライン教育を受ける余裕がなかった何百万人もの人々にとっては深刻な問題です。これは、すべての SDGs の達成に劇的な影響を与えることとなります。私たちは、解決策を示す閣僚宣言を必要としています。」とカタリナ・ポポビッチ (国際成人教育協議会) は述べている。

¹ “Civil society voices demand a strong Ministerial Declaration & a systemic approach to the SDGs”
<http://www.womenmajorgroup.org/wp-content/uploads/2020/07/HLPF-2020-Press-Release-by-members-of-MGoS-1.pdf>

² 閣僚宣言は HLPF 最終日に採択される予定であったが、加盟国間で合意が得られず、採択されなかった。そのため、7月22日を期限として「サイレンス・プロシージャ」と呼ばれる、発言がない場合は同意したとみなす手続きにかけられたが、本声明の発出 (7月30日) および翻訳 (8月24日) 時点で、国連から結果に関する公式な発表はなされていない。

「COVID-19 の下での世界的な不況の中で、私たちは、インフォーマルで、届け出もされず、保護されず、無報酬の労働と、女性と少女によるケアワークに依存した搾取的で互いにとって破壊的な社会・経済的慣行について考え直し、撤廃する貴重な機会を得ています。私たちは、こうした労働やケアワークが COVID-19 の感染が広がるなかで増加していることを知っています。」と、ワルダリーナ（女性・法・開発に関するアジア太平洋フォーラム、アジア太平洋地域 CSO エンゲージメント・メカニズム代表）は語った。「この問題に取り組むためには、制度的障壁に焦点を当てた閣僚宣言が必要です。しかし、現在、議論されている草案は、市場を基盤とした新自由主義的なアジェンダに沿う内容です。それでは世界的な不平等はなくなりません。しかも閣僚宣言は合意されないかもしれないのです。」

HLPF では、SDGs が採択されてから 5 年が経過したが、世界は目標達成に向けた軌道から外れており、COVID-19 のパンデミックが更なる後退をもたらすことが広く認識された。世界中からの市民社会の声は、SDGs が進展しないのは制度的な障壁と不平等のためであることを、フォーラム全体を通して強調した。移民や難民、LGBTQ の人々、高齢者、農民、先住民族、黒人、二分化された性やジェンダーの枠に縛られない人々、障害がある人々、インフォーマル労働者、性産業従事者、家事労働者、その他多くの人々など、周縁化された人々が経験するジェンダーと人種の交差する不平等を、パンデミックは悪化させている。

「現在の搾取的で不平等な開発モデルに従うなら、SDGs を達成することはできません。深遠な不正義と不平等の上に成り立っている新自由主義的な開発モデルの枠の中で私たちがいまだに救済策を考えようとしているのだとすると、より良い復興（ビルド・バック・ベター）は何を意味するのでしょうか？」とマーベル・ビアンコ（女性学研究財団、アルゼンチン）は疑問を呈する。

フォーラムへの市民社会の包摂と参加にも制限があった。世界中の市民社会の代表者が HLPF にオンラインで発言者として参加する機会については、特にオンラインでなければニューヨークでの会議に参加できなかったであろう人々にとっては、今年は増えた一方で、インターネットへのアクセスに関しては多くの困難があった。また、通訳が設けられなかったために、テーマ別の議論に有意義に参加することが困難であった。セッションの数はぐっと少なくなり、各セッションは短時間で、より台本に沿ったものであったため、包括的かつ参加型の方法での有意義な対話や議論は制限された。

「現在の SDGs のレビュープロセスは、パフォーマンスに墮しているものであり、政府に厳しい質問をする場が含まれておらず、2030 アジェンダを達成するために必要な制度的分析を行う場がほとんどありません。私たちには参加できる場が必要であり、目標を再検討するためには、クラスター化され、細分化されたアプローチに終止符が打たれなければなりません。」とバレンティーナ・ボドルグ・ルング（ジェンダー・センター、モルドバ）は述べた。

世界は、HLPF 2020 プロセスの閣僚宣言、アジェンダ 2030 と人権およびすべての人々の

ための公正で平等な未来への真に野心に富んだコミットメントを必要としている。しかし、私たち、「メジャー・グループとその他のステークホルダー (MGoS)」は、単なる閣僚宣言を望んでいるわけではない。今日の交差的危機から真の意味で立ち直るためには、制度的障壁に焦点を当て、あらゆる形態の不正義を解体することを約束する閣僚宣言に、加盟国が同意する必要がある。さらに、すべての HLPF と持続可能な開発プロセスは、体系的かつ変革的なアプローチを通じて、すべての不平等を根絶するために根本的に取り組まなければならない。総会決議 67/290 に従い、HLPF は政治的リーダーシップ、ガイダンス、提言を提供することが求められている。

「私たちは、細分化したアプローチやプロセスから脱却しなければなりません。SDGs は相互に関連しており、実施や見直しの際には、クラスター化されるべきではありません。SDGs を達成するためには、透明で参加型の政策決定プロセスが必要です。政府は、正義を指向する運動や組織化の包括的で変革的な考え方を採用しなければなりません」と、ラウラ・ヴィラデバル・コロミナス (カタルーニャ州アジェンダ 2030 フェミニスタ) は述べている。「国連と持続可能な開発アジェンダは、新自由主義的な枠組みを脱却し、グローバルな連帯、脱植民地主義、分野横断的で交差性の理解に立ったフェミニズムに基づいたものでなければなりません。」

各国は、アジェンダ 2030、人権、社会正義へのコミットメントを示し、市民社会を含むすべてのステークホルダーと一体となって、さまざまな危機を終わらせ、誰も取り残さない世界を実現するために努力する、またとない機会に直面している。「メジャー・グループとその他のステークホルダー」のメンバーとして、私たちは、このことが実現するまで緊密に活動を続け、各国が深遠な不正義のシステムを、ケア、関係性、公平性に基づくものに変革することを要求し続けていく。集団的な対応が、すべての人にとってより良い世界への鍵となる。

もし加盟国が HLPF の結果に合意できないのであれば、目的に合ったものにするために HLPF を再考する時が来ている。

メジャー・グループおよびその他のステークホルダー (MGoS) について

メジャー・グループには、女性、先住民、子ども・若者、NGO、農民、自治体、労働者・労働組合、科学技術、ビジネス・産業の各グループがある。その他のステークホルダーには、アジア太平洋地域 CSO エンゲージメント・メカニズム、LGBTI ステークホルダー・グループ、市民社会開発資金グループ、障害者ステークホルダー・グループ、高齢化ステークホルダー・グループ、教育・学界ステークホルダー・グループ、ボランティア・ステークホルダー・グループ、Together 2030、仙台エンゲージメント・メカニズムが含まれている。

「メジャー・グループおよびその他のステークホルダー (MGoS)」は、「持続可能な開発の

ための 2030 アジェンダ」の策定と採択に不可欠な存在であった。採択以来、MGoS はプロジェクト、イニシアティブ、アドボカシー、知識共有、2030 アジェンダのモニタリングなどを通じて、その実施に向けて積極的に活動してきた。MGoS は国連事務局から独立した自主的な組織である。MGoS は、フォーラムのすべての公式会議への出席、公式会議での発言、文書の提出、書面や口頭での意見の発表、提言、サイドイベントやラウンドテーブルの開催などを行っている。

詳細情報、インタビュー、引用についての連絡先

女性メジャー・グループ

Sehnaz Kiyamaz Bahceci - sehnaz@wedo.org , 00491743454731

Andrea Vega Troncoso - andrea@wedo.org , 0014016260537

教育・学術ステークホルダー・グループ

Katarina Popović - sec.general@icae.global , 0038163316730

アジア太平洋地域 CSO エンゲージメント・メカニズム

Wardarina - rina@apwld.org , 0066910699130

高齢化ステークホルダー・グループ

Frances Zainoeddin - fzainoeddin@msn.com

LGBTI ステークホルダー・グループ

Nikki Brommann - nikki@coc.nl

Luíza Drummond Veado - lveado@outrightinternational.org , 0019294260594

Together2030

Javier Surasky - j.surasky@cepei.org , 005492216035820

子ども・若者メジャー・グループ

Donovan Guttieres - op@unmgcy.org

市民社会開発資金グループ

Stefano Prato - stefanop@sidint.org

【翻訳】

一般財団法人 アジア・太平洋人権情報センター <https://www.hurights.or.jp/>

一般社団法人 SDGs 市民社会ネットワーク <https://www.sdgs-japan.net/>

特定非営利活動法人 国際協力 NGO センター <https://www.janic.org/>